2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

Ⅰ【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	14 日本語学科	責任者	福盛貴弘	
基準４	教育課程・学習成果		自己評価	A

★基準４の自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫DP,CP を公表し、それに即した体制となっているから。

点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

★<学位授与方針>（記入してください。）

《日本語学科ディプロマ・ポリシー》

日本語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本語学）の学位を授与する。

１．豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

(1) 母語として、または第二言語・外国語としての日本語の高度な運用能力を有し、それを基礎として国際社会で求められる幅広い教養と知識を修得している。

(2) 日本語学の専門的な知識をもとに、日本語を客観的および分析的に理解することができる。

２．他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

(1) 日本語学・日本語教育学の専門的な知識と、語学・異文化理解等の能力を組み合わせて、専門分野に関して議論することができる。

(2) 自らの視点による考えをまとめ、文章や口頭で発表する能力を修得している。

３．自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

(1)日本語学・日本語教育学の専門知識をもって地域社会や国際社会のニーズに応えようとする意欲を持っている。

(2) 日本の文化・社会・歴史等についての問題意識を持ち、先入観を持たず自ら課題を設定することができる。

４．本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

(1) 日本語および日本文化を東西文化の接触・交流の観点から理解している。

(2) 自らが学んだ内容が、多文化共生を前提とした現代社会において果たしうる役割を理解している。

変更 有( ) 無(✓)

評価の視点１ 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。
評価の視点２※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７

◆**学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。**

≪回答≫なし

点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。）

日本語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

１．教育内容

(1)全学共通科目においては、基本科目のＡＢＣＤの４系列の履修を通して、広く一般的な教養を身につけさせる。

(2)基礎教育科目の選択科目によりキャリア教育を行う。

変更 有( ) 無(✓)

(3)初年次においては、必修の基礎教育科目で、日本語の基礎的運用能力を前提として専門的な研究に入るためのスタディスキルやＩＴスキルを修得させる。
(4)専門教育科目では、日本語学、言語学、日本語教育学関連の必修科目および語学の選択必修科目の学修を通じて、日本語学、言語学、日本語教育学、語学、異文化理解等の能力を修得させる。
２．教育方法
(1)日本語に加えて複数の外国語を学ばせることによって、日本語と他言語との比較の視点や、日本語教育上必要な学習者の母語についての知識を修得させる。
(2)３・４年次においては、日本語学、言語学、日本語教育学、日本言語文化学など、学科カリキュラムに対応した少人数のゼミである専門演習で、活発な議論や卒業論文の執筆を行うことにより、特定の課題について問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表する能力を修得させる。
(3)日本語の運用能力を高めるための科目の学修により、社会人として仕事をするうえでの強みとなる実務的かつ高度な日本語力を修得させる。
３．評価方法
(1)学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、日本語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
(2)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化する。

評価の視点１ 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点２ 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点３※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７

（DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

ＤＰ１（１）→ＣＰ２（１）（３）
ＤＰ１（２）→ＣＰ１（４）
ＤＰ２（１）→ＣＰ２（２）（３）
ＤＰ２（２）→ＣＰ１（１）、ＣＰ２（２）（３）
ＤＰ３（１）→ＣＰ２（２）
ＤＰ３（２）→ＣＰ１（４）、ＣＰ２（２）
ＤＰ４（１）→ＣＰ２（１）（２）（３）
ＤＰ４（２）→ＣＰ２（１）（２）（３）

★項目 (2) 4-2DP１から DP４について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。
以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものです。なおここでは DP１のみ抜粋ですが続きがあります。
・ＤＰ「１．知識・技能」（１）に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、ＤＰ「１．知識・技能」（２）の「文献や資料を的確に読解する」については、ＣＰ「１．教育内容」（１）で、『「日本文学史概説」「日本語学概説」などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、ＣＰ「１．教育内容」（２）で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

≪回答≫
・ＤＰ１（１）「日本語の高度な運用能力」は、ＣＰ２（１）共修日本語科目である「日本語特別演習」、母語日本語科目である「語彙・読解」など、ＣＰ２（３）「専門演習」「卒業研究」などで身につけられる。
・ＤＰ１（２）「日本語を客観的および分析的に理解すること」は、ＣＰ１（４）「日本語学概論」「日本語学基礎演習」「日本語教育学概論」「言語学概論」をはじめとした各種専門科目で身につけられる。
・ＤＰ２（１）「専門分野に関して議論すること」は、ＣＰ２（２）各種語学科目に加え、「日本語学」「日本語教育学演習」「言語学特殊講義」など、ＣＰ２（３）「専門演習」「卒業研究」において身につけることができる。

・ＤＰ２（２）「文章や口頭で発表する能力」は、ＣＰ１（１）「日本語学基礎演習」「リサーチ・スキルズ」など、ＣＰ２（２）各種語学科目に加え、「日本語学」「日本語教育学演習」「言語学特殊講義」など、ＣＰ２（３）「専門演習」「卒業研究」において身につけることができる。
・ＤＰ３（１）「地域社会や国際社会のニーズに応えようとする意欲」は、ＣＰ２（２）「日本語教育学演習」「言語学特殊講義」などにおいて身につけることができる。
・ＤＰ３（２）「問題意識を持ち、先入観を持たず自ら課題を設定すること」は、ＣＰ１（４）、ＣＰ２（２）における各種専門科目や「日本文化史概説」などにおいて身につけることができる。
・ＤＰ４（１）「東西文化の接触・交流の観点」は。ＣＰ２（１）（２）（３）における各種専門科目において身につけることができる。
・ＤＰ４（２）「多文化共生を前提とした現代社会において果たしうる役割」は、ＣＰ２（１）（２）（３）における各種専門科目において身につけることができる。

◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点１※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1＊学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点２※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点３※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点４※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1＊学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点５※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 9、10
評価の視点６※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点７※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点８	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。

★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。

≪回答≫1 年次の基礎ゼミとして、3 クラスに分けた担任制で、日本語学基礎演習を行なっている。日本語「学」の基礎を講義形式以外から学べる体制となっている。外国語科目においては以下の通りである、日本人学生の英語科目はプレイスメントテストによって、一部クラス分けが行なわれている。留学生については、漢字能力の確認が行なわれている。	≪根拠資料≫ **14-C4-1：該当シラバスおよびクラス分け資料**

評価の視点９※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点１０※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点１１	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。

★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。

≪回答≫キャリアプランニングを 2 年次対象で、キャリアのための日本語を 3 年次対象で開講している。また、2 年生から 3 年生に進級する際のゼミ説明会および 3 年次の授業時間外で、キャリアセンターの職員を迎えて、現段階で考えておくべきことのイメージを話してもらっている。	≪根拠資料≫ **14-C4-2：キャリア科目シラバス、キャリアガイダンス実施資料**

★項目(3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。

≪回答≫
科目名：英語コミュニケーション１A・１B
選定理由：科目の特性・授業内容ともに「DAITO BASIS」科目の目的Ⅱ“国際性の確保：国際的コミュニケーション能力の基礎力を確保する”に合致する科目である。また、本学科の必修科目であり、大東学士力に含まれる“（１）地球規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力・コミュニケーション能力を持ち、諸問題の解決に貢献できる”を培うことができる科目であった。

★項目 (3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。

≪回答≫日本語学、言語学、日本語教育学を 3 本の柱として位置付けており、これらの分野の概論については、全ての学生が受講することになる。これらは、日本語を客観的に説明できるようにするための基盤である。そして、その基盤を補うための周辺科目として、日本文化、多文化共生の科目があり、地域社会や国際社会のニーズに応えられるように設置されている。

◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

点検・評価項目 (4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
評価の視点１※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 9

★項目 (4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。
（注：「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。）

≪回答≫
教職や図書館司書などの資格にかかわる科目を受講している学生のみその対象となる。単位の実質化を図る措置については、教職志望の学生を中心に卒業生教員シンポジウムを開催し、現職教員の OB から教育実習の事前指導等を行うことで、授業時間外における学習促進の取り組みを実施している。

★項目 (4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを**承認した教授会議事録が必要**）。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。

≪回答≫ 上限を超える履修登録は今のところ行なっていない。	≪根拠資料≫ **14-C4-3：なし**
★（上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。） ①諸資格科目（教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等）履修学生数：44 人 ②長期海外留学終了者　学生数：0 人 ③編入生　学生数：0 人 ④転学部・転学科生　学生数：　0 人	≪根拠資料≫ **14-C4-4：なし**

評価の視点２※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」
評価の視点３※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点４	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。

★項目 (4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。

(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例

≪回答≫ リサーチ・スキルズにおける口頭発表ができる技術を身につける授業や、言語学特殊講義 1 における方言調査がある。なお、方言調査においては、学内学会誌の『外国語学会誌』において次年度に公表されている。	≪根拠資料≫ **14-C4-5：該当科目シラバスおよび外国語学会誌**

(2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例

≪回答≫ 日本語学基礎演習や専門演習における発表内容について質疑応答し合う授業がある。	≪根拠資料≫ **14-C4-6：該当科目シラバス**
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例	
≪回答≫ 授業後に来る質問（直接、メール、DBmanaba など）や、オフィスアワーで対応した。	≪根拠資料≫ **14-C4-7：外国語学部オフィスアワーおよび DBmanaba**
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例	
≪回答≫ 日本人と留学生が異なる視点で同時に学んでいく共修日本語科目として、日本語特別演習 1 および 2 が開講されている。そこでは、日本人と留学生が同じグループで課題をこなしている。	≪根拠資料≫ **14-C4-8：日本語特別演習１AB２AB シラバスおよび授業資料**
(5)効果的な授業方法について上記(1)～(4)以外の事例	
≪回答≫ 日本文化特別演習において、日本の伝統文化である三味線や茶道や華道を体験的に学ばせる機会を設けている。	≪根拠資料≫ **14-C4-9：日本文化特別演習のシラバス**

評価の視点５	学習の進捗と学生の理解度の確認

★項目 (4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。

≪回答≫
紙媒体での小テストやレポート、オンライン対応となる DBmanaba を用いた小テスト、ドリル、レポートなどで確認している。
また、日本語学基礎演習や言語学概論では、試験を返却した後に解説の授業も行っている。

評価の視点６※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 （履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む））。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項,（オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入）
評価の視点７※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス

★項目 (4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ 日本語学基礎演習において、レジュメの作成の仕方、グループでの準備の仕方、質問の仕方、レジュメが不出来な場合は再提出をするなど、授業外学習のやり方が示されている。	≪根拠資料≫ **14-C4-10：日本語学基礎演習シラバスおよび授業資料**

評価の視点８	授業形態によって１授業あたりの学生数について配慮している。

★項目 (4) 4-4⑥授業形態（講義、実習、演習）によって、１授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。（例：演習科目、実習科目は少人数（原則 10 名以下）、大規模講義科目は原則 200 名まで、など）

≪回答≫
日本語学基礎演習は、定員に対して 3 クラスに分けるので、約 20 名程度。リサーチ・スキルズ、日本語特別演習 1 は 2 クラスに分けるので、約 30 名程度。専門演習は原則 10 名以下。

評価の視点９	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。

★項目 (4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みについて、記述してください。

≪回答≫ 日本語学基礎演習において各発表グループで授業時間外に発表のための事前準備が行われている。	≪根拠資料≫ **14-C4-11：日本語学基礎演習シラバスおよび授業資料**

◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。

≪回答≫

なし	
点検・評価項目(5)	**4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPA による成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料
評価の視点２※ **【基礎要件●】**	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1＊学則、A4-36＊学位規則、基礎要件確認シート 10,12
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。	
≪回答≫ なし	
点検・評価項目(6)	**4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**
評価の視点１※ **【評価要件○】**	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせて設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
評価の視点２※ **【評価要件○】**	学生の学習成果の測定方法を開発している。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DP に示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。	
≪回答≫ 学科独自の指標として、学科で重要な授業（必修や選択必修科目）の GPA 成績を用いて、授業の理解度を分析し、卒業論文やそれにあたるものの提出状況を確認することとした。	≪根拠資料≫ **14-C4-12：部局ごとの評価指標（2022-2025）**
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。	
≪回答≫ 卒業論文の提出状況は学科協議会で報告のうえ、履修者のうち、9 割以上の提出があった。学科の重要科目（必修や選択必修科目）の GPA 分析、学修行動調査の結果に関する分析は今後実施予定。	≪根拠資料≫ **14-C4-13：学科会議事録**
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。	
≪回答≫ いわゆる業者のテストによって測れる学力が、必ずしも大学での能力に結び付くわけではなく、一般的な能力は劣っていても専門性は優れているという学生を見つけるのに適している。	
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。	

≪回答≫ いわゆる業者のテストが何を求めているのかをこちら側が理解することで、大学で行うべきものであるか否かを判断することができる。	
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点 1 ※ 【評価要件〇】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）:（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点 2 【評価要件〇】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例： ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。	
≪回答≫ 語彙・読解の授業で今後対応の予定であるが、現時点ではまだ方針が立っていない。	≪根拠資料≫ 14-C4-14：なし
★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ 2022 年度から学科の基盤となる 3 本柱（日本語学、日本語教育学、言語学）の基礎科目に関して、GPA から学生個々の適性を分析していく予定であったが、その分析結果がこちらに届かないので、現状対応できていない。	≪根拠資料≫ 14-C4-15：なし

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	8	2022-4Ⅲ-1(4-7)	（日本語学科）GPA 成果の可視化	基幹科目と DP との関連度を、GPA 成果の可視化から検討する。 日本語学科	1.基幹科目（日本語学基礎演習、日本語教育学概論、言語学概論）の GPA 評価から理解度を確認する。（@30*3）	A(100%)：80 B(80%)：60 C(50%)：40 D(20%)：20	2022：回答保留 2023：回答保留 2024：B 2025：B

					2.学修行動調査、卒業時アンケートなどから、DPとの整合性を検証する。（10）		2026：B 2027：A 2028：A
①	9	2023 (2022～継続)	（日本語学科）「論理言語力検定１級」「J－TEST 実用日本語検定」を利用した日本語力強化	2019 年度カリキュラムから始まった１年次の必修科目「語彙・読解中級」と、１年次の学生が全員受ける「論理言語力検定１級」「J－TEST 実用日本語検定」とを連動させて、学生の日本語力を強化する。 予算として検定試験の実施予算を入れる。 日本語学科	分析力や指導力の基盤となる日本語力が不足しており、解決に向けた客観的な評価基準として用いる。「論理言語力検定１級」「J－TEST 実用日本語検定」を利用することで、より客観的に個々の学生の日本語力をはかることが可能になり、学生への指導がより効果的にする。	A(100%)： 分析結果をもとにした指導の実施 B(80%)：分析結果をもとにした指導方法の検討 C(50%)：試験結果の分析 D(20%)：試験の実施	2023：C 2024：B 2025：B 2026：B 2027：A 2028：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞

日本語学、言語学、日本語教育学を３本の柱として位置付けており、これらの分野の概論については、全ての学生が受講することになる。これらは、日本語を客観的に説明できるようにするための基盤である。そして、その基盤を補うための周辺科目として、日本文化、多文化共生の科目があり、地域社会や国際社会のニーズに応えられるように設置されている。このように、日本語学について DP に沿ったカリキュラムになっており、さらにプレイスメントテストによってクラス分けをするなどは、評価できる。

また、2021 年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、GPA 評価、卒業論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DP に示した学習成果との検証、学修支援内容の検討、基幹科目理解度の検証としている。これらの測定結果は今後、基準４の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。

また、履修登録単位数の上限を超えての履修は認めていないとされているが、教職課程等資格科目は日本語学科では、卒業単位外となっているはずであるので、それらの単位を含めれば、履修登録単位数の上限を超えている場合もありうるので、確認していただきたい。

2023 年度＜所見＞

学科の学位授与方針と教育課程の方針は連動して構築され、カリキュラムツリーとして日本語学、言語学、日本語教育学について３本の柱を中心によく表されている。このツリーは web 公開されており、外部にも公表されている。留学生はプレイスメントテストでクラス分けされ、学修進度に合わせた教育ができるような工夫がされている。カリキュラムツリーも学生の教育履歴やキャリア志向に沿って履修できるような構成となっていることから評価できる。学修成果の指標についても、業者のテストによって日常の授業を重視しており、AL 授業や留学生・日本人学生と組んだ授業をすることも多く、学科の特性を利用した教育課程が展開されている。事業計画としても、GPA を利用した学修成果の可視化、複数の日本語学検定を利用した学生の学修成果の可視化をシステム化することを挙げているので、これらの活用が期待される。また、学修成果の可視化の評価指標として卒業論文を設定しており、９割以上の提出があった事は高く評価できる。

また、昨年度の所見で指摘された履修登録単位数の上限を超えている教職課程等資格科目履修者への対応として、現職教員の OB から教育実習の事前指導等を行い授業時間外における学習促進の取り組みを実施していることは評価できる。なお、教職課程センターが成績下位者に対して、アンケート形式で履修・学修指導をしているので、確認していただきたい。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 （評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）

A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 （評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準４教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。